



しきかちようずびようぶ  
 綴プロジェクト作品 重要文化財 四季花鳥図屏風  
 狩野元信 筆 寄贈先・原本所蔵：公益財団法人 白鶴美術館

### 狩野派の四季花鳥図の原点。

右隻から左隻へ。桜、牡丹、紅葉、椿、季節は流れ、再び梅の咲く春へ。両側には力強く張り出す常緑の松。永遠の時が六曲一双の屏風に刻まれていく。ここでは、金雲は清浄な光の象徴。そこに異国の鳥たちが遊ぶ理想の世界。「四季花鳥図屏風」は、狩野派の基礎を確立した狩野派二代目元信が、奈良・興福寺のために描いたといわれる。中国の水墨画と大和絵の色彩美を融合させた、狩野派の四季花鳥図の原点を示す貴重な作品。日本の美を代表する金碧障壁画の誕生の証がここにある。

重要文化財「四季花鳥図屏風」の原本は神戸・白鶴美術館に所蔵されています。綴プロジェクトは、二〇〇九年に高精細複製品を制作、寄贈しました。保存のため公開が限られる原本に代わり、一般公開はもちろん、美術を学ぶ学生の教材に活用できるのは、屏風に仕立てた高精細複製品ならではの、時代を超えて受け継がれる日本の美を若い世代にも伝えていきます。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。

海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品(引作品)は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト  
 でご覧いただけます。  
[global.canon/ja/tsuzuri](http://global.canon/ja/tsuzuri)

#### 公開情報

綴プロジェクト作品「四季花鳥図屏風」は九月二十五日(水)〜十月二十日(日)まで白鶴美術館にて公開予定です。

